



里山に育む生きものたち

9 ノキシノブ

(ウラボシ目 ウラボシ科)

学名 *Lepisorus thunbergianus*
(Kaulf.) Ching

写真・文 / 安 昌美

里山とは山里を逆にしたといわれていますが、人間の活動している中の自然、山里に広がっている雑木林や谷津田などを含む場合が多いです。茨城町では、台地にあるコナラやクヌギの雑木林が里山を代表する林でしょう。今月は、身近なところに生育しているノキシノブを紹介しますが、じつは、人間の活動で絶滅が心配される生物が多いのもこの区域なのです。

▼ノキシノブとは

ノキシノブは軒シノブの意味で、藁葺き屋根の軒先などにシノブのように生えているところから名前が付けたのでしよう。以前は古い家の軒先から屋根全体近くにまで群生しているのを見た覚えもありますが、今では滅多

に見られません。最近の新しい家ではノキシノブが着生できるような場所が見あたりません。日常生活でも軒先、軒下、軒端、軒並み、軒をつらねるなどの言葉はあまり使われなくなっているのでは。でも、ノキシノブはいつまでも近くについて欲しいです。

▼ノキシノブの仲間

ノキシノブは多少変化もありますが葉は細長く、先端は細くなり、縁も切れ込みはありません。常緑で、一年中生育が確認できます。裏面の上部には、胞子嚢群が主脈の両側に並んでいます。茨城町ではウメ、シラカシなどの幹、コナラの根もとなどにも着生し、時にはスギの枝にも着生します。また、石垣などにも生えます。北海道南

部にはまれですが、本州、四国、九州の低山地には普通に見られます。ノキシノブ属はアジアの熱帯から温帯に分布し、50種余りがあるそうです。日本では10種ほどとされ、茨城県内ではノキシノブの他にヒメノキシノブ、ミヤマノキシノブ、ホテイシダが知られています。町内ではノキシノブしか見ていません。

▼ノキシノブの生活

地面に直接生えることはほとんどありません。乾燥して水分が不足している時は、葉は少ししおれますが、雨の後は元の姿に戻ります。植物ですから光合成をして生きています。直射光は好みませんが、他の植物に上部を覆われて光が不足しては生活ができなくなり、移動できない植物は本当に大変です。地面に生えていては、背丈が低いので、上部を覆われてしまつて生活ができません。着生という生活をすることで、生き残ったのでしょうか。胞子は地面にも落ちるでしょうし、運の悪い胞子も多いと思います。シダ植物は種子植物とは異なる生殖法をとりますので、程よい湿度や水分のある樹幹や岩に落下しなければ繁殖できません。かたちは単純ですが、染色体数では2倍体、4倍体の他に3倍体もあるそうです、思ったより複雑な種です。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成24年12月1日現在)

◆総人口 34,511人(-16) 男 17,229人(±0) 女 17,282人(-16) ◆世帯 12,441戸(-2)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています